

# JAMの主張

## 全組織フル回転を！

### 確実な積み上げで勝利しよう

機関紙JAM 2019年4月25日発行 第243号

亥年選挙の前半戦、統一地方選挙が終わった。全国で行われた地方自治体議員選挙に、JAMの組織内・準組織内候補29人が挑み、26人が当選を勝ち取った。今回の統一地方選挙では、これまでJAMの議員がいなかった議会への新人の擁立も見られたほか、準組織内候補の拡大などもあり、JAM議員団会議は、改選前の地方議員44人の勢力を維持することができた。

善戦したものの惜敗となった3候補も含め、厳しい選挙戦を戦い抜いた各陣営、並びに単組・地協・地方の各組織、組合員の皆さんに、感謝申し上げたい。

とりわけ、13票差での惜敗となった静岡県浜松市議選の戦いは、悔やんでも悔やみきれない結果となった。候補者自身、陣営の皆さんの思いを察すると、心が痛むばかりである。JAM本部が所在する自治体では、当落が一票差で決まったほか、全国的にも同じ得票数でくじ引きにより当選者を決めたケースも複数報道されている。

言うまでもなく選挙は、活動が一票一票の積み重ねとなり、その結果が数字で示される厳しい戦いだ。計画した取り組みはもちろんのこと、想定できる限りの結果につながる行動を、積み残さずにやり切ることが肝要だ。

5月に入り、JAMは全国で『田中ひさや』モードに突入する。ここで、田中ひさやを参議院に送り込むことができなければ、JAMの運動に明日はない。本部、地方、地協、単組の全組織をフル回転させ、勝利をつかみ取る活動を強力に推し進めよう。

選挙に奇策はない。実直に一票一票積み上げる以外に勝利の道はない。われわれの勝利の方程式は、組合員一人ひとりに確実に声を掛け、支援を拡げていくことにある。

残された期間はあと2ヵ月余り。集会、門立ち、個々面談など、あらゆる手段を使って『田中ひさや』を訴えよう。

副書記長 椎木盛夫